



【ブルガリア ガブロボ工科大学での友好交流協定締結式 左：石田隆城副学長 右：イラリオノフ学長】

◆立田山専光坊 第23世 靈雲軒禅月 釋秀慧老師を偲ぶ

昭和から平成、そして令和へ

躍動する星城

★ブルガリア ガブロボ工科大学と友好交流協定締結 ～星城大学～

★新制服お披露目会～星城高等学校～

★文化の創造 - 芸術編 - 芸術の世界で活躍する卒業生

特集

学園アラカルト

西川会 新会館開場 / 星城懇話会 教育講演会

立田山専光坊 第23世 靈雲軒禅月 釋秀慧老師を偲ぶ

学校法人名古屋石田学園 理事長 石田 正城



【左から坊守様 釋秀慧老師 石田正城理事長】

去る6月2日に御逝去された立田山専光坊 第23世 靈雲軒禅月 釋秀慧和尚様（89才）の来迎式（本葬）が令和元年11月10日、桑名市多度町の専光坊で執り行われました。

老師は昭和43年に「生きた人間の苦痛を救える仏教」を目指し、専光坊は東本願寺より独立、単立の寺として真の人間教育を始められました。また、老師は昭和45年から奈良県大和郡山市の内観寺で「内観法」を吉本伊信師の元で修業、研鑽され、日本を代表する研究者として実践指導を自坊に「内観道場」として開設され半世紀、今日まで継承されてみえました。

昭和63年、星城高等学校の創立26周年記念式典で女子生徒に「すてきな女性、すてきなお母さん」という演題で御講話をいただいたのが老師と私の出会いでした。

老師は「見える世界と見えない世界がある」お母さんの心、お父さんの心、先生の心、そういうものがよく見える人が魂の高級な人間です。「見えない世界をしっかりと見ないといけない」とお話になられ心に強く感銘を受けました。

昭和50年、学園創立者であり父である石田鑑徳先生が逝去し、2代目として遮二無二自分なりに努力をし、経営の安定として大学法人の設置計画を立てました。そこで「彼我一体」の建学の精神、その教育理念を確認するため、昭和63年12月の年末を利用して、専光坊にて老師から内観の指導を受けさせていただきました。時には本堂の廊下で、また外庭のざら板上で凍えつき身体が震え上がる中で坐らせていただきました。「こんないかげんな自分がよくも生かされて来た、こんな自分が皆様に支えられ、今日もまた生かされている」となんとなく理屈に合わない事が成り立っていると涙が出てまいりました。また、面接の中で、困難な時ほど「チャンス到来」と正道を歩め、等々、多くの御指導、御示唆をいただきました。

翌1月7日、老師から昭和天皇が崩御され、今日から新しい「平成元年」になったというニュースをお聞きいたしました。同時に重かった身心がとても軽くなった自分を発見し驚きを覚えました。お陰様で4月から明德短大が開校をいたし、現在は星城大学、大学院と順調に教育が行われておりますのも、今日まで31年間に亘る老師の「自分に与えられた自覚悟」をしっかり持てとの御指導の賜です。

平成5年に星城中学校を開設した折に、余りにも豊かで甘やかされた社会、家庭の中で自律心のない中学生に「感謝のできる実践力に富んだ逞しい人間」の育成に内観法を取り入れることにいたしました。夏休みの一週間、専光坊、内観道場での修業を行い、人間として一番大切な身心安楽の基本を学ばせていただいています。今年で27年目を迎えていますが、釋秀慧老師、釋之規和尚様の御指導をいただき、生徒達に感謝の心、自律の心が根付いてまいりました。

さて、老師は6月2日に御逝去されましたが、体調をくずされ、主治医から余命の宣告の言渡しを5月上旬に之規和尚にされたそうです。この1ヶ月間に秀慧老師と24世之規和尚の師弟は今までない真に命をかけられた修業で老師より心印を稟けられた深い悟を引き継がれたと伺っています。

坊守様*、道友*の皆様の哀しみは計り知れませんが、第24世之規和尚様のもとで専光坊がますます充実した内観指導が行われますよう祈念申し上げます。

- *坊守様：住職の奥様のこと
- *道友：同じ道を歩む修業者のこと

稱讚記
貴殿は、深く三宝を敬い、建学の精神として、大和心を教育の真髄と流に貫き、之を国際交流の場へも展開するものな
り、心から敬慕するものなり。
石田学園
理事長 石田正城殿
真宗 一心一向派
本寺立田山妙蓮院 専光坊
菅長 宇佐美秀賢
平成二十三年七月二十七日

【釋秀慧老師から石田正城理事長へ贈られた「稱讚記」】

昭和から平成、そして令和へ 躍動する星城

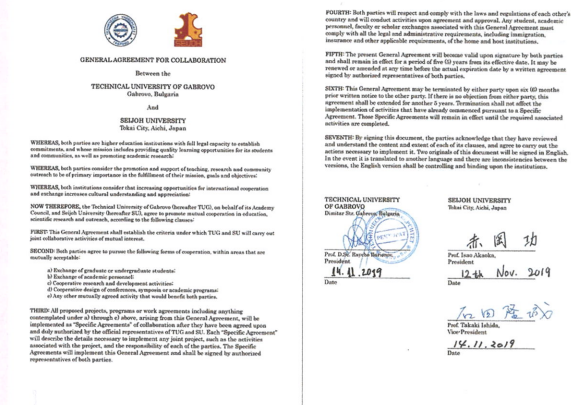
星城大学とブルガリア ガブロボ工科大学が 友好交流協定を締結！

11月14日、星城大学の石田隆城副学長がブルガリアのガブロボ工科大学を訪問し、同大学55周年記念行事に参加、両校の友好交流協定が締結されました。

星城高校が所在する豊明市とブルガリア共和国は、平成17年に開催された「愛・地球博」で、市町村と参加国がペアとなって国際交流を図る「フレンドシップ事業」を通して親善を深めており、本学園石田正城理事長は、「愛・地球博」ブルガリアフレンドシップ大使を務めました。

本学園と豊明市は、包括連携協定を締結しており、同協定の下、交換留学プログラムとして、星城高校は、ブルガリア高校生を受け入れ、各種の交流や見学会を実施、生徒宅へのホームステイも行い、生徒同士の交流を図っています。また本校生徒もブルガリアへ派遣しています。

今回の石田隆城副学長のブルガリア訪問は、10月にガブロボ工科大学のイラリオノフ学長が星城大学を訪問されたとき、招待を受けたものです。協定の締結により、地域の国際化や国際交流が一層図られることが期待されます。



【友好交流協定書】

星城高校 新制服お披露目!!

星城高校では11月9日、第3回学校見学説明会にて、来年度の新1年生から新しくする制服のお披露目会を行いました。昨年度より制服検討委員会にて1年をかけて、今後の星城高校生に愛される冬服について検討を重ねてきました。そして、今年の6月からは、デザインを4種類に絞り、広く中学生からもWEBで投票していただくなど、より多くの方々からの意見も生かし決定をしました。



【新制服でポーズもきまっています！】



【アトリウムは大盛り上がりでした】

お披露目会は本館アトリウム中央階段を使い、8名の生徒より、新制服である冬服やジャケットを脱いだ合服、夏の制服やポロシャツを着て、それぞれのデザインや機能性を、さまざまなポーズにより表現し、強調しました。

500名以上の保護者や中学生が注目する中、生徒によるナレーションやモデルの動きに、手拍子や歓声上がる華やかな雰囲気となり、新1年生の入学への期待を大きく膨らませるお披露目会となりました。

昭和から平成、そして令和へ

躍動する星城

— 文化の創造 芸術編 — 芸術の世界で活躍する卒業生

チェロ奏者 佐藤 桂菜 さん
(星城中学校 平成27年度卒業)



★後輩への一言★
今限りある時間を有効に、
周りの大人にも頼って
たくさん吸収してください。

星城中学を卒業後、アメリカに音楽留学しました。ニューヨークにある音楽大学であるジュリアード音楽院で、周りの素晴らしい仲間と刺激されながら毎日チェロの練習に励んでいます。

星城中学では、人と人との関わりの深さが思い出として残っています。また、自分と向き合う時間の大切さを見つけることができました。音楽家は自分自身との闘いと思っています。星城中学に入学したことで、自分で考え、行動し、責任を持つことの意味を考えることができました。

3歳からチェロを始めていますが、一つ一つ、目の前のしなければいけないことに一生懸命向き合い、こなしてきました。未来のビジョンを描きながらも、焦らず、コツコツやってきたことが、今の自分をつくり上げていると思います。

演奏を聴いて感動した、とても良かったと言っていたとき、音楽家となって良かったと思います。5年後、10年後、チェロ奏者として、自分にしかできないものを作り上げていきたいと思っています。これからも、もっと勉強して、人に感動を与えられるような音楽家になれるよう努力していきます。

♪ 今後の活動予定 ♪

3月11日に名古屋でコンサートを行います。ジュリアードで知り合ったバイオリンの友人とのデュオのコンサートです。是非皆さまに聴いていただけたら嬉しいです。



集英社 文庫編集部 清田 央軌 さん
(星城高等学校 昭和57年度卒業)



星城高校卒業後、大学に進学、出版社「集英社」に就職し、文芸雑誌「すばる」の編集長などを経て、現在は「文庫編集部」で働いています。

星城高校時代は、図書室によく通いました。司書の先生が静かに読書されている、その同じ空間で本を読んでいると、日向ぼっこをしているみたいに心が温かくなりました。

「世の中にはこんなに自由で面白い人がいる。自分ももっと自由でいいんだ」と視野を広げてくれた、学生時代の本との出会い。その喜びを多くの人と分かち合いたくて出版社を志望し、就職しました。高校時代、中島敦「山月記」の感想文を書いた際、厳格な国語の先生から褒めていただいたことも、「本に関わる仕事がしたい」と思い始めたきっかけです。

編集者の何気ない言葉が作家にとってヒントとなり、作品の魅力がより深まることも、まれにあります。多様な読者の視点を想像し、感想を多角的にお伝えするよう努めています。担当した作品が高く評価されれば我がことのように感激。時には作家と一緒に落ち込むこともあります。「次回作、楽しみです!」の一言を忘れません。

「この道だけが、道じゃない」。目的は同じでもたどり着く方法はたくさんあるので、あまり自分の信念に縛られすぎず、柔軟に・・・と、これからも好きな本の仕事に取り組んでいきます。

★後輩への一言★

「好きな先生」「好きな居場所」と出会ってほしい。先生の言葉や、「図書室の窓に差す夕陽」とか「屋上から見た青空」とかは、自分を「原点」に立ち返らせてくれるはず

俳優 阿部 亮平 さん
(星城高等学校 平成9年度卒業)

〈ドラマ「びったれ!!!」の一場面〉



【©田島隆・高橋昌大(別冊ヤングチャンピオン)2013/2014「びったれ!!!」製作委員会】

■ 今後の活動予定 ■

映画が4〜5本、スペシャルドラマも控えています。今後もドラマ等頂いたお仕事を全力でやり、新たに海外作品も挑戦すべく、英会話の勉強も頑張っています。

★後輩への一言★

皆さんも、自分で限界を作らず、そして諦めず、やりたいことをやり続けてください。それが、大きなこと、小さなことに関わらず



現在、俳優として、テレビや映画を中心に活動しています。星城高校では野球部に所属し、日々の練習に汗を流しました。3年間続けた野球部最後の夏の大会は、特に印象に残っています。

高校時代の夢は、プロ野球選手になることでした。その夢を自分で諦めてしまったことを後悔したので、役者を始めてからは、決して自分から諦めることはしないと決めています。

俳優という仕事は、自分の知らないところで人に元気を与えられる、自分が頑張っていることで、人に喜んでもらえたり、頑張ろうと思ってもらえる、それが魅力、やりがいです。監督をはじめ、多くのスタッフ、キャストと共に一つの作品を作り上げることはとても楽しいことです。

辛いことや苦しいこと、挫けそうになることも沢山ありました。逆境をきちんと受け入れ、どうするかを考え、後ろを向かずに前に進む。全てに対して、全力で向き合う。これらのことを自分に言い聞かせながらやってきました。今は、本当に諦めずにやり続けたことを良かったと思っています。

「感謝の気持ちを忘れないこと」、「自分から諦めないこと」を信念に、5年後、10年後も俳優としての自分であることを目指し頑張っていきます。

加賀友禅作家 久恒 俊治 さん
(星城高等学校 昭和42年度卒業)



星城高校卒業後、大学に進学しましたが、会社勤めはせず、加賀友禅作家に入門。現在は金沢市で加賀友禅の工房を開設しています。

星城高校へは、毎日片道1時間半かけての電車通学でした。クラブは新聞部に入り、クラブに始まりクラブに終わる学生生活でした。高校時代に持つことができた良き友の存在は大きな財産です。

【友禅夢樹六曲屏風「早蕨の歌」】

工芸は純粋芸術とは違い、使って頂くことに価値があります。多くの職人が関わり合い、一つの作品が出来上がります。その作品を人が着て喜んでくれると嬉しいし、人との縁が広がっていく事にやりがいを感じています。

伝統工芸の社会も大きな過渡期にきています。工房では原点に戻り、植物を採取して染料を作り、環境に負担をかけない友禅染色を開発し進めようとしています。逆境に遭った際は、原点に戻り、本質を見つめる。見る視点を変える。友禅染めとは何かを考え活動してきました。「制作姿勢は妥協をしない」、「受けた注文は断らない」をポリシーに努力し続けています。

これからも加賀友禅染めの一つの新しい方向性の礎を作るためチャレンジしていきます。

● 今後の活動予定 ●

インテリアにも友禅を使えるよう活動していきます。1〜2月にストリングスホテル名古屋にて友禅染のワークショップを予定しています。

★後輩への一言★

逆境は成功を生む転換点



【訪問着「富貴」】

学園アカルト

国際交流

星城大学



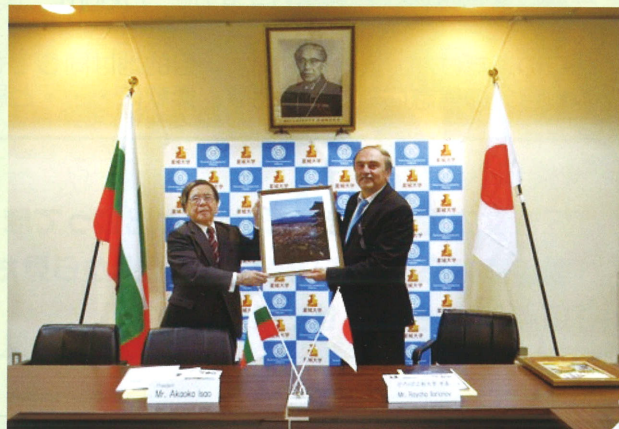
【ジトミル市視察団の皆さまと】

星城大学は、10月に2カ国からの海外のお客様をお迎えしました。

1カ国目として、ウクライナ ジトミル市視察団が、17日、本学を訪問され、キャンパスの見学や教職員との交流会が開かれました。

2カ国目は、ブルガリア ガプロボ工科大学 イラリオンフ学長が21日から26日までの日程で本学を訪問され、キャンパス見学や教職員との交流が行われたほか、東海市や名古屋市の視察等をされました。また、本学教職員との会談を通し、ガプロボ工科大学と本学との友好交流協定締結に向け、具体的な取り組みについて議論がなされました。11月に入り、石田副学長がガプロボ工科大学を訪問し、14日友好交流協定を締結しました。

星城大学は、今後も地域の国際化や国際交流に積極的に貢献して参ります。



【左:赤岡学長 右:イラリオンフ学長】

「花溢れる街づくりプロジェクト」

星城高等学校

星城高等学校は、今年度文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（グローバル型）の指定を受け、外国人市民との「多文化共生」と高齢者の「健康福祉」をキーワードに生徒の探究的な学びを推進しています。



【地域住民の皆さまと一緒に】

その一環として、10月19日、ベトナム人家族や敬老会などの地域住民と協働して、星城高等学校の生徒が、星城大学外国人留学生とともに豊明市内の5地区で花植え活動「花溢れる街づくりプロジェクト」を実施しました。

【花植えセレモニーの様子】



【きれいな花が植えられました】

前後駅前で行われた「花植えセレモニー」では、赤岡星城大学学長他の来賓を代表して、小浮豊明市長が「皆様の熱い情熱により雨が止みました。ともに豊明市を花溢れる街にしましょう」と挨拶されました。



「愛知県ユネスコスクール交流会」

星城中学校



【みんなで盛んに意見を交わします】

10月19日にウィルあいちで行われた「愛知県ユネスコスクール交流会」で、2年生がE S D（持続可能な開発のための教育）地域創生活動について発表しました。

星城中学校では、自然体験学習で訪れる福井県美浜町に対して、以前から地域貢献につながる提言をしてきました。本年度は、地元産サツマイモを利用し、それをバウムクーヘンに加工し、地元で販売するという6次産業化プロジェクト「CONNECT2019」を提言しました。交流会では、このプロジェクトを畅想し、具体策を検討し、提言にまとめた取り組みについて発表しました。

ファシリテーターの先生方からは高評価をいただくことができ、生徒たちの自信となりました。今後の活動のヒントを得ることができた有意義な時間となりました。

【堂々と発表できました】



秋の味覚を収穫「いもほり」

星の城幼稚園

さまざまな果物や野菜、穀物などが収穫の時期を迎える中、10月30日、今年も年長組は「いもほり」に行きました。

畑を管理している方々に、事前にいものつるを切って掘りやすいように段取りしていただきました。いもの品種は焼きいもにも干しいもにも向く「ベニハルカ」です。



【たくさんとれてご機嫌です】

子ども達は、いもの周りをスコップなどでゆっくり掘りながら、「よいしょ」と上に引っ張り上げます。「とれたよ!」「たくさんついているよ!」「重いよ!」などと言いながら嬉しそうに持ち上げながら見せてくれました。ひとつの株に数本鈴なりになっているなど、いもがどのように育っているかを知る機会でもあります。収穫の喜び、土に触れる感触、そして自然との関わりも感じられたことと思います。

持ち帰ったおいもは、年中・年少組のみんなにも配りました。



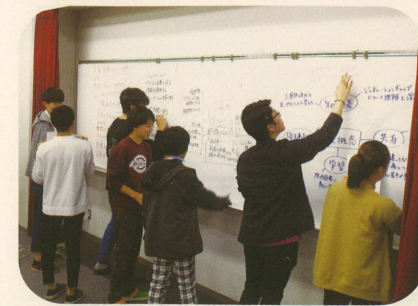
【いもをいねいに掘ります】

合同セミナー

星城大学リハビリテーション学院

専門学校では、9月から計15回にわたり1・2年生を対象に「合同セミナー」を開催しました。

本校教員指導の下、1年生は2年生から学校生活のノウハウを学び、学院生としての心得を継承し、2年生は1年生と関わることによって上級生としての自覚や責任感を育む機会となっています。



【理学療法について考察します】

合同セミナーでは、ブルーノート（理学療法士・作業療法士養成学校の学生が卒業までに学習すべき重要事項を網羅した一冊）を用いて理学療法を行うための適切かつ確かな理学療法評価技術を学びます。さらに、注意すべきことを明確にし、どのような治療に役立っているのかを考察することで知識と評価技術、治療を系統的に組み立てる能力を養います。合同セミナーに参加することにより1年生は専門的知識の学習方法を学び、2年生は既習知識の定着度の再認識ができ、臨床実習に必要な臨床的考察の一部を体験します。



【1・2年生と一緒に学ぶ貴重な機会です】

西川会 新会館 開場



【西川会新会館】

日本舞踊の西川流は、五大流派のひとつとよばれ、日舞界でも初期のころに誕生した流派です。

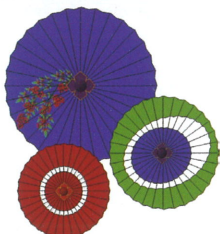
西川流が主催する「名古屋をどり」は、終戦直後の昭和20年9月、西川鯉三郎二世家元が公演を始め、旧御園座、中日劇場と名古屋の中心地で開催し、昨年、再び新生御園座で公演を行いました。今年で72回目、70年以上続く名古屋の風物詩です。

本学園と一般財団法人西川会は、平成30年3月、地域文化の形成、活性化に寄与することを目的に包括連携協定を締結し、西川右近総師は星城大学文化大使に就任、西川陽子家元補佐、西川カーク別格師範は星城大学丸の内キャンパスでオープンカレッジを開講しています。



【真新しい舞台】

西川会は長く西川鯉三郎二世家元の稽古場兼自宅を財団法人会館として稽古場に利用し、日本舞踊の普及に努めてきましたが、令和元年9月、新たに、名古屋市川名に新会館を開場しました。新会館は全国でも有数の大きさを誇る日本舞踊の稽古場として、また様々な文化発展の場として、教室に、リハールに、イベントに活用されることが期待されています。



【開場式での西川右近総師】



星城懇話会 教育講演会開催

11月4日、名古屋駅のミッドランドホールにて、「次世代を育てる」と題し星城懇話会「教育講演会」が開催されました。今年度は弁護士であり、「行列のできる法律相談所」をはじめ多くのテレビ番組に出演され、ご活躍中の菊地幸夫弁護士を講師としてお招きしました。

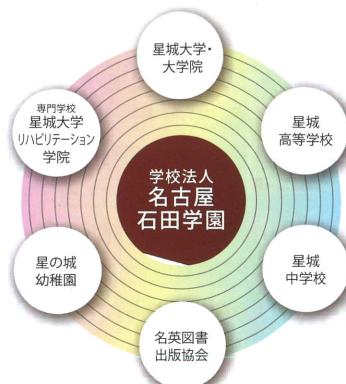


【熱弁される菊地幸夫 弁護士】

テレビで目にするままの親しみやすいお人柄で、地元小学生バレーボールチームの監督や大学の教壇に立たれたご経験など様々なお立場から子ども、若者と関わり接する中、ご自身で見出された指導・教育法を示されました。色々な場面でのエピソードを交えて、とても分かりやすくお話いただき、参加者の皆さまからは「コミュニケーションの大切さがよくわかった」「子どもに考える力を身につけさせたい」などの感想が並び、大変好評いただいた講演会となりました。



【多くの皆さまにご参加いただきました】



学校法人 名古屋石田学園

〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目14番32号
Tel: 052-221-8921
Fax: 052-689-6003

URL: <http://www.n-ishida.ac.jp/>